

日南地域プロジェクト(近海かつお一本釣り・省エネ化タイプ) もうかる漁業創設支援事業実施結果報告

【事業実施者:日南市漁業協同組合】

実証期間:平成23年4月1日～平成26年3月31日

日南・南郷地区の近海かつお一本釣り漁業の経営の安定的持続を図るため、従前の70トン型から省エネ化タイプの19トン型に転換し、初期投資の低減、運航コストの削減等により生産コストの削減を図り、併せて短期航海を基本とし、「瀬付き」と呼ばれる比較的大型の脂の乗ったカツオを主対象とする高鮮度重視型操業へ転換し、単価の向上と水揚げ金額の向上を図ることを骨子とする収益性改善の実証事業を行った。

実証項目

【生産に関する事項】

①低コスト生産体制への移行
・船体の小型化による初期投資の低減、運航コストの削減

・船体の低抵抗と主機の小型化による燃油消費量削減

②漁獲物の高品質化

③快適で安全な就労環境の確保

【流通・販売に関する事項】

・輸送経費の削減

・ブランド品認証による付加価値向上、販路拡大、消費拡大

実証結果

【生産に関する事項】

①造船所からの聞き取りによると、本事業を開始した平成23年当時の70トン型かつお一本釣り漁船の建造費は約4億円、一方、19トン型省エネ化タイプの改革型かつお一本釣り漁船の建造費は163百万円であることから、70トン型から19トン型に転換することにより初期投資の大幅な削減が図られた。また、運航コストの主要な要素を占める人件費と燃油費は、従前の70トン型かつお一本釣り漁船では乗組員18名、燃油消費量498kl/年であるのに対して、実証船のそれは11名、274kl/年(3ヶ年平均)であった。70トン型から19トン型改革船に転換することにより、運航経費の大幅な削減が可能であることが示唆された。

・バルバスバウの大型化、ベッカーラダーの導入、ポイドスペースの確保と1ランク小型の主機の導入により燃油消費量の削減を図った。

②漁獲物の高品質化に関して、「瀬付き群:比較的大型の脂ののったカツオ」を主対象とする短期航海(平成23年度2.96日/航海、平成24年度2.78日、平成25年度2.49日)を行うとともに、冷凍機11kw2基と海水殺菌装置を効果的に使用し、滅菌海水による初期冷却強化及び保冷を行った。その結果、実証船の販売価格は平成23年度353円/kg、平成24年度349円/kg、平成25年度373円/kgで、実証船と同水域で操業した70トン型当業船(3隻平均)のそれはそれぞれ304円/kg、332円/kg、351円/kgで、当該手法による販売価格向上の可能性を示唆している。

③本事業実施に当たり、日本人乗組員の所得の改善を図ったほか、船員室等の通路高を約170cmにするとともに、寝台出入り口の拡大を図った。また、小型漁船救急支援連絡装置を導入し船員の安全性の向上を図った。

【流通・販売に関する事項】

宮崎卸売市場出荷に当たり、4業者で一番安価な見積りを提示した業者を選定することにより輸送経費の削減を図った。

「瀬付き」高鮮度カツオ製品の宮崎県水産物ブランド認証に向け、当該製品の差別化を図るべく、当該製品の近赤外分光分析計に脂質測定を行った。

収支の状況について

以上のとおり、実証項目に関しては一定の成果を得た。収支に関して、実証船の水揚げ金額は、初年度151百万円、第2年度164百万円、第3年度153百万円で、いずれの年度も改革計画の目標値(141～142百万円)を上回った。他方、事業に要した経費は、初年度249百万円、第2年度206百万円、第3年度181百万円で、その結果収支は初年度△98百万円、第2年度42百万円、第3年度28百万円であった。償却前利益は、初年度△1百万円、第2年度は8百万円、第3年度は△2百万円で、改革計画の償却前利益の目標値(初年度7百万円、第2年度10百万円、第3年度10百万円)を何れの年度も下回った。その要因の一つとして燃油価格の高騰があげられる。今後とも生産コストの削減と生産性の向上に努める必要がある。